

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

|               |            |
|---------------|------------|
| 2023年 11月 25日 |            |
| 所属部局・学年       | 野生動物研究センター |
| 氏名            | 關 真理江      |

|   |
|---|
| <b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)   |
| 熊本県宇城市  |
| <b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)   |
| 動物福祉実習  |
| <b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)   |
| 2023年 11月 24日 ~ 2023年 11月 27日 (3日間)   |
| <b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)   |
| 熊本サンクチュアリ   |
| <b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)  |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。  |
| 11/24 から 11/27 に、熊本サンクチュアリにて以下の実習を行った。<br>11/24 施設内見学<br>11/25 チンパンジーの餌やり、ドングリ拾い(採食エンリッチメント)、麻袋による布団づくり(環境エンリッチメント)<br>11/26 チンパンジーの餌やり(採食エンリッチメント)、ボノボの採食、環境エンリッチメント、認知研究の見学、スナメリ観察<br>11/27 掃除、帰宅<br><br>チンパンジーおよびボノボの行動観察を行った。各飼育棟には雌と雄で分けられた複数のチンパンジーが飼育されており、午前中に飼育員が隠した食物を探すために周囲の樹木を探索していた。チンパンジー、ボノボと共に行動が雄と雌とで異なることが観察され、雄のほうが頻繁に動き回り、頻繁にディスプレイ行動を行っていた。<br>期間中には社会行動に関する実験を見学した。一つはアイトラッキングを用いて道具の使用や日常の行動について視線がどの方向に向いているのかを確かめる実験であった。もう一つは、チンパンジーが複数以上同時にひもを引っ張ることで餌を取れる道具を用いて、どのチンパンジーがイニシアティブを取るのか、どの個体が多く実験に協力するのかを観察した。<br>夕方になると、チンパンジーたちは群れと共に巣に戻りました。メスたちは若いチンパンジーたちを樹上<br>数日間の観察を通して、チンパンジーの社会性や遊び心、同性間のコミュニケーションなどがよく観察さ |
| ※メンター(PWSプログラム指導教員)が確認済の報告書を【 <a href="mailto:report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp">report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp</a> 】宛にご提出ください。  |
| れ、社会性霊長類としての彼らの特異性が再確認された。  |
| <b>6. その他</b> (特記事項など)  |